

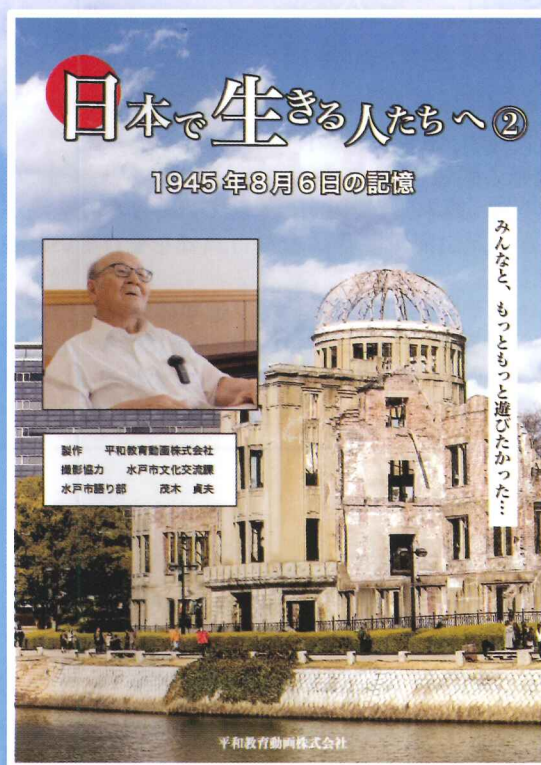
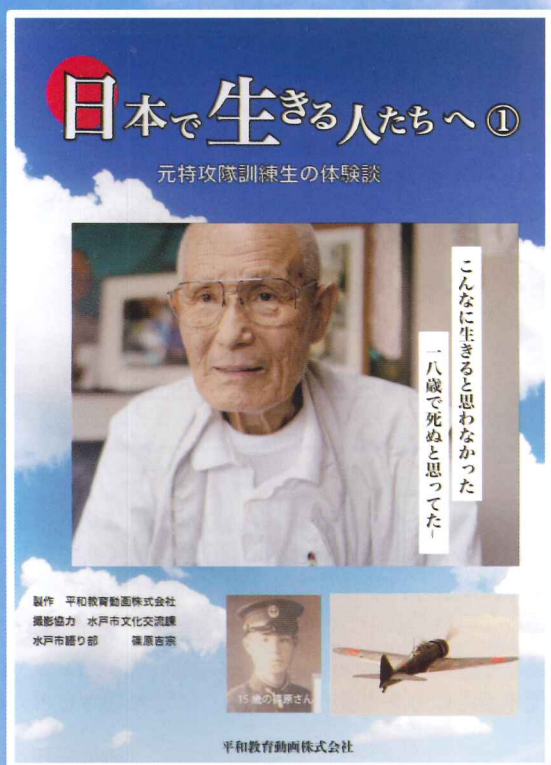
平和教育DVD

〈道徳や総合学習、地域社会など〉

平和の大切さを改めて知り、当たり前の日常への感謝の心を育む。
死生観の違いを知り、命の尊さについて考える。

〈社会科(地歴公民)〉

教科書で習う事柄や戦後の米露対立についての学習に紐付け、
より深い理解に繋げる。



● 日本で生きる人たちへ ① (元特攻隊訓練生の体験談)

- ・ 上映時間: 56分
- ・ DVD定価: ¥100,000+税
- ・ 学校特別価格: ¥70,000+税

● 日本で生きる人たちへ ② (1945年8月6日の記憶)

- ・ 上映時間: 18分
- ・ DVD定価: ¥70,000+税
- ・ 学校特別価格: ¥50,000+税

● 日本で生きる人たちへ ③ (長崎原爆)

- ・ 上映時間: 30分
- ・ DVD定価: ¥100,000+税
- ・ 学校特別価格: ¥70,000+税

世界各地で起きている戦争や紛争のショッキングなニュース。
しかし遠い異国だけではなく、今の平和な日本でもかつては戦争があり、
それを経験した人たちがいる。

彼らが何を経験し、どのような思いで生き抜いてきたのか。
戦争を知る人たちの生の声と、日本で起きていたことや経験者の思いを残し、
この国で生きる人々に、心のあり方を訴える作品。

日本で生きる人たちへ ①

元特攻隊訓練生の体験談

篠原吉宗さん：1929年（昭和4年）生まれ、93歳（取材当時）
第二次世界大戦中、軍事一色の日本で兵隊への憧れを抱き、
15歳で特攻隊の訓練生として土浦海軍航空隊に入隊。そして
人吉海軍航空隊（熊本県）での訓練を経て当時日本の基地が
あった北朝鮮の元山海軍航空隊で飛行訓練を受けていた時
に終戦を迎える。
しかし終戦後はすぐに帰国はできず、ソ連軍の侵攻を受けて
モスクワの国際捕虜収容所に移され強制労働に従事。元山か
らの道中では、飢えや倒れていく仲間、そしてすれ違った満洲

から日本へ帰る民間人の亡くなっていく幼い子供たちを目の当
たりにする。

19歳でようやく帰国したもの、次に待ち受けていたのは
「なぜ帰ってきたのか」という周りからの厳しい言葉や、就職
差別だった。またレッドパージによる不当解雇を恐れ、就職後
は一度も周囲へはシベリア帰りとは出さなかった。戦争が
終わってからでもその影響は続いていたのだ。

「18歳で死ぬと思っていた。戦争は勝っても負けてもダメ。
やらないのが一番。77年間戦争がなかった不思議。今では世
界に誇れる日本になった。これが100年続いたらたいしたもの
だ。」そう篠原さんは語る。

Q 日本で生きる人たちへ

YouTube



日本で生きる人たちへ ②

1945年8月6日の記憶

茂木貞夫さん：1933年（昭和8年）生まれ、88歳（取材当時）
被爆したのは、小学校6年生の時だった。学校へ向かって、
友達の手と歩いていった時だ。突然空がピカッと光り、気づ
けば倒れた塀の下にいた。僕は必死に重い塀の下から抜け
出した。

近くにいた大人の「川へ飛び込むんだ！」という声が聞こえる。
わけも分からぬまま川へ入り、自宅の近くまで泳いだ…。上流
からたくさんの遺体が流れてくる光景。そして今でも消息の分
からないハク君。

楽しく遊んでいたはずの子供時代を戦争によって奪われた
茂木さんは今を生きる私たちに、命の大切さを訴える。

Q 日本で生きる人たちへ

YouTube



日本で生きる人たちへ ③

長崎原爆

1945年8月9日の長崎。当時小学校1年生で被爆した大村さん
が原爆の恐怖、原爆の爆心地近くの惨状、被爆者の身体的・
精神的苦痛、そして戦後の社会での差別や偏見を証言する。

今でも蘇る、焼け焦げた街のにおい、親も家も失い泣き叫ぶ
子供の声。

なぜもっと早くに戦争をやめられなかったのか…。
戦争の悲惨さ、被爆者としての苦しみ、そして今の世代への想
いが込められた、命や平和の尊さについて考えさせられる作品
です。

Q 日本で生きる人たちへ

YouTube



お申し込み・お問い合わせは

(映) 有限会社 博映商事



〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

【HP】<http://hakuei-shoji.jp>

【E-Mail】info@hakuei-shoji.jp